

リフォームに、新築に、
住まいづくりのほっとな話題をお届け！

おうちのはなし

2023.3月号 268



わが家は『健康一番家』

<発行人>
株式会社 大成建託
☎0280-87-6177
✉info@fp-taisei.co.jp
〒306-0405 茨城県猿島郡境町塚崎2542-1



日本の「木の文化」と家

—世界遺産と私たちの住まい

- ・世界最古の木造建築「法隆寺」
- ・世界自然遺産「屋久島」「白神山地」
- ・世界文化遺産「白川郷」「富岡製糸場」

NEWS お得にリフォーム！ こどもエコすまい支援事業


子育て世帯、若者夫婦世帯を対象に ZEHレベル基準を満たす新築住宅に100万円の支援。また**すべての世帯**を対象に、省エネルギー等幅広く支援する事業です。

これからの季節は快適リフォームのチャンスです。この機会、お得にリフォームしませんか。お気軽にご相談ください。

詳しくはこちら>>

<https://www.fp-taisei.co.jp/archives/news>



 こどもエコすまい支援事業事務局
こどもエコすまい（国土交通省）ホームページ
支援事業 <https://kodomo-ecosumai.mlit.go.jp/>

笑う門には
福来たる

健康だいすき！ 壮年Diary ～とある、ひとこま～

以前、古民家に泊まる機会がありました。そこは雪国で、景色は素晴らしく美しかったのですが、とにかく寒く、暖房も効いていない？と思うくらいでした。

とにかく部屋を暖かくしようと、窓際の障子をすべて閉めました。

すると、部屋が暖かくなったのです。障子を閉めているのといないのとでは大違いです。こんなに温度が変わるんだとみんなで驚いたのです。暖房もしっかり機能し始めました。

そして思いました。寒さをしのぎたい、けど明かりは欲しいと思った時に、和紙を使おうと思った人、すごい発明をしたのですね。和紙を張るために細い棧を組み、それがまたとても

障子の発明

繊細なデザインにもなっています。

障子だと、窓の結露も少なく、部屋の湿度も良いあんばいに保たれます。

障子を発明した人はすごいと改めて思いました。たぶん、寒さだけでなく、その機能性の高さから日本中の家に使われるようになったのですから。

木と紙と土でできている日本の家ですが、機能美も含め最もサステイナブルな建築なのだと思います。

日本の家、もっと学びたいですね。



社長コラム



世界遺産と私たちの住まい 日本の「木の文化」と家

寺社建築だけではなく、古民家として残されている建物でも、世界に特有の木組みの技術を使って建てられ、日本は「木の文化」といわれています。そして現代の新築の戸建て住宅でも、多くは木造住宅を守り続けています。日本の世界遺産を通じて、身の回りの住まいにある日本の「木の文化」を感じながら暮らしてみましょ。

日本と「木の文化」

世界の中でも日本人ほど、歴史が長く細やかに木を使いこなしてきた民族はいないでしょう。それは建物にとどまらず、生活の中に深く染み込んでいます。

2014年に世界無形文化遺産になった和紙の原材料も木です。日本に豊富にあるさまざまな樹木の中から、楮を選び出し、独特の流し漉きによって長い繊維の丈夫な和紙を生み出しました。和紙は日光の紫外線を浴びるほど白さが増してくるといわれています。

その他にも履物や家具をはじめ、様々な調度品に木を使って

います。まさに適材適所という言葉の通りに、木を使いこなしてきました。

さらにこれらの調度品は、使い切った後に燃やしてエネルギーとして利用することも忘れません。それで終わりではなく、さらに燃えて残った灰は畑に撒いて肥料にし、土に戻します。地球環境保護の時代のお手本は、日本の「木の文化」の中にあるといっても過言ではありません。

和紙のような無形文化遺産と同じように、日本の世界遺産を見ると、現実の住まい文化にも通じる「木の文化」がたくさんあります。

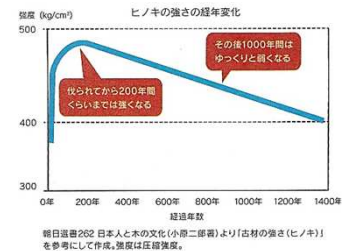
「法隆寺」とヒノキ

1993年から始まった世界遺産で、最初に登録された法隆寺が、世界最古の木造建築物であることは国際的にもよく知られていることです。まさに日本の「木の文化」を代表しています。そして木造も1300年を超えて使えることを証明してくれている貴重な文化遺産でもあります。この法隆寺は、日本人の好きな木、ヒノキでできています。

もともと日本書紀の中でも、お宮はヒノキで造るものとしています。社寺の他に仏像も大陸から伝わってきましたが、日本で造られるようになると、仏像もやはりヒノキが使われます。特有の芳香で気分を落ち着かせ、抗菌効果がある成分を多く含んでいるのがヒノキです。清潔感のあるヒノキは、銘木としては料理店のカウンターなどにもよく使われています。

最古の木造建築物として残されているくらいですから、何よりもヒノキは建材として向いている材です。実は建立された当初より、ヒノキ材は強度が増しています。

建てられて200年ほどで2割ほど強くなり、その後1000年かけて強度が劣化します。ですから、建立されて1300年経った今は、ちょうど建立当時の強度になっているくらいです。



法隆寺と同じ1993年に、白鷺城の姫路城も世界文化遺産になりました。おなじように大事な心柱には直径1mものヒノキが使われています。

法隆寺の昭和の大改修では、日本にはヒノキの大樹がなく、台湾檜を使用しました。しかし、戦後の植林では需要も見込まれてヒノキがたくさん植えられました。そしてしっかり生長して、今では十分に使える量になりました。現在建てられている木造住宅の柱にも、よく使われています。

「屋久島」とスギ

同じ1993年に世界自然遺産として登録されたのは、屋久島と白神山地です。どちらもスギとブナの原生林が残されています。屋久島の縄文スギは国際的にも有名で、ホットスポットとして訪れる人も多くいます。このスギも、ヒノキに劣らないほど日本の「木の文化」の主役です。

日本書紀にはヒノキと同じ様にスギも出てきます。スギは船を造るのに適している材とされています。

このスギは1種1属の、日本固有の樹木です。学術名もクリプトメリア・ヤポニカ



古民家とスギ林

といい、日本(=ヤポニカ)という単語が使われています。その意味は、「日本の隠された財産」で、命名者はスギが日本を代表する材であると考えていたのです。世界にはトルコスギやレバノンスギという国を代表する樹木がありますが、じつはこれらは松の一種に近く、日本のスギとはまったく違うものです。

そのスギの源種は、屋久島にあるといわれています。海流などによって自然に広がるだけでなく、人が使うために植林をして日本中に広がりました。今では北海道にもあります。

スギは桶や樽などの日用品などにもたくさん使われてきました。もちろん、住宅でも使われています。たくさん植えられて安い材であると同時に、じつは高級木材の代表でもあります。肌理(キメ)の美しさから、仕上材として使われるものはヒノキの比ではないほど高級です。スギの節の味わいを残した材が、桂離宮では長押に使われています。



スギは大気汚染に弱く、綺麗な空気を吸って生長します。しかし一方、建材となると空気を浄化する機能が顕著であることがわかってきました。

スギの芳香は優しく長持ちして、肌ざわりも柔らかく温かみがあります。本来は傷つきやすく床材には向かないのですが、傷も楽しむこととしてフローリングに使用する人も増えてきました。肌に触れてスギ材を楽しめば、遠く世界自然遺産の屋久島からのつながりをかんじられるかもしれません。

「白神山地」とブナ

青森と秋田の境にある白神山地は、世界最大級のブナの原生林があることで世界自然遺産に登録されています。ブナの実が動物の餌になることもあって、森の女王と呼ばれています。

先のヒノキやスギの植林によって、多くのブナの原生林は伐採されてきました。世界遺産はその残りですが、ブナも日本を代表する木です。

しかしブナは、ヒノキやスギに比べるととても腐食しやすく、狂うので建材としての用途はほとんどありません。その為「ぶんなげる材」ということから、名付けられたともいわれます。ただ山形県の山寺、立石寺の一部に使われているのが確認されています。松尾芭蕉が「閑かさや岩にしみ入る蝉の声」を詠ったお寺です。

それでもブナはよく乾燥させて、室内で使う家具やフローリングには使われるようになってきました。強度と弾力性があるので、曲げ木にすることもできます。

針葉樹とは違い、見た目も優しいブナの家具を手に入れたら、白神山地の森の女王を思いながら大切にしてください。

「白川郷」とクリ

1995年に世界文化遺産に登録された白川郷は、日本の原風景の一つです。手のひらを合わせるように屋根をかけた「合掌造り」が特徴です。釘を使わずに縄で縛って組まれていることも、現代の制震構造と同じ効果を発揮しているといわれます。住まい文化の知恵には、現代の科学以上に奥深さがあります。この白川郷の住宅は、クリ材を使って建てられています。



クリは、ブナ科の樹木です。ところがブナとは違い、腐りにくく水にも強いので白川郷のように構造材として使われてきました。スギやヒノキよりも歴史的には古く、縄文時代の遺跡からも出土します。北海道・東北の縄文遺跡群の中心となる山内丸山遺跡でもクリの太木でできた檣跡が発見され、2021年に世界遺産となりました。

クリは昔から建築では土台などに使われていました。ブナと同様にフローリングや家具になるものもあります。しかし今ではあまり蓄積量もなく、見かけることが少なくなってきました。

腐りにくく、硬くて丈夫なクリは、鉄道の枕木に使われていました。庭づくりなどでリサイクルの枕木を使えば、縄文人からの日本人の息吹を感じられるかもしれません。

「富岡製糸場」とクワ

2014年に世界遺産となった富岡製糸場は、日本の絹産業の中心地でした。産業としての世界遺産としては石見銀山と並び、近代遺産としては負の遺産である原爆ドームと並びます。富岡製糸場と絹産業遺産群の中で、数々の物語も生まれてきました。日露戦争で勝ったのも、当時世界一となった絹生産の収益があったからです。

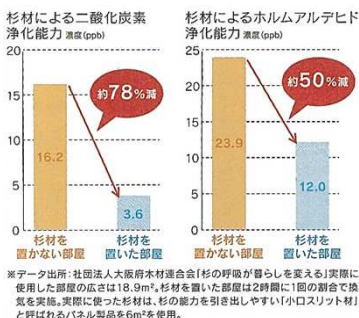


この産業を支える絹の生産には、養蚕が欠かせません。養蚕農家の2階で「おかいこさま」と呼び、家族と同じように暮らしながら飼われていました。1階の囲炉裏の火の熱を利用して、蚕を育て繭を生産していました。絹産業は熱エネルギーも利用した、いわば繭の家に支えられていたのです。

そして蚕が育つには、クワの葉が必要です。クワは果樹でもあり、漢方薬にもなる用途の多い身近な樹木です。硬くてしつかりしたクワ材は、琵琶などの弦楽器に使われ、杖にすれば高級品となります。

建材としては、銘木として床の間の周辺で使われています。今ではすっかり樹脂やアルミになってしまいましたが、よく使われていたのは、襖の棧です。光沢がなく本物の木の質感がある襖棧に出会ったら、本当に伝統的な格式の高い建物であることが分かります。

こうして世界遺産を振り返ってみても、日本の「木の文化」を感じる事ができ、身近にある適材適所の木材にも愛着を感じます。世界遺産を意識しながら、住まい文化を愉しみ、住まいづくりの夢を描くのも良いのではないのでしょうか。



すまい文化の栞

世界無形文化遺産の台所



東京の浅草にある創業200年を超える“どぜう”料理の老舗に入ると、1階の広間にはたくさんの座布団が並んでいます。座布団の間には幅尺5寸(約45cm)、長さ2.5mほどの板が置かれていて、これをテーブルとして使用します。



足のない食台は折敷(おしき)と呼ばれて、平城京跡からもヒノキ製のものが発見されています。折敷は今でも茶会などでは使われています。老舗の大衆食事場となると、まるで足場板のようなものが折敷の代わりとなったのでしょうか。この折敷の上に鍋がのり、胡座をかいて箸でつまむとほど良い高さになります。

庶民の間では板が使われることはなく、ランチョンマットのようにムシロや大きな葉っぱが使われていたようです。

この折敷に足がつくと膳となり、その後日本では膳は広く使われるようになります。室町時代には中国から、テーブルや椅子がもたらされ一時は広まりかけたのですが、結局ほとんど膳が使われるようになりました。上足の家で床に座る文化の日本には、膳の食卓が向いていたのでしょうか。

また、個別の膳の上に載せる小さな器がたくさん作られたことも、条件の一つに数えられます。それは食器の生産性の高さを表すことでもあります。

茶人もさまざまな器を開発し、懐石料理はこうした食文化から生まれてきたものだと考えられます。ここでも和食がユネスコの世界無形文化遺産になったことの一環がうかがわれます。

この食器の多さが日本のキッチンの特徴です。膳は台盤ともいわれ、台盤がある場所が台盤所、それが台所と転じました。キッチンの語源が「火を使う処」であることと比べると、文化の違いが良くわかります。食文化は住まい文化とも深い関わりのあるものです。

Health & Sustainability

資源が待っている

ロシアのウクライナ侵攻の影響で、エネルギーの危機が続いています。日本は資源のない国といわれ、自給自足など遠い世界のように思えます。エネルギーだけではなく、食料輸入率も高く、住宅建材としての木材も同様です。

アメリカはシェールガスの開発を進め、石油価格の上昇とともに価格も高まり、あつという間に有数の産出国になりました。

日本近海でのメタンハイドレートの採掘や再生可能エネルギーの開発も叫ばれていますが、今一つ遅く感じます。

でも、意外にも日本は農業生産高では世界でもトップ10に入る国であり、森林率では先進国中では3位で、人工林が多く着実に木材は生長しています。

日本の森林全体では、年間に1億m³の木材が増えています。



単純な割り算をすれば、1分間に170m³の木材が増えているということです。ちょっと贅沢に木材を使った住宅で換算すると、10棟分の木材量に匹敵します。ただし、伐採して運び出さなければ使うことはできません。しかも生長して増えている量が、そのまま全て使えるわけではなく、製材して乾燥させ材木として活用できるのはおよそ3割ほどです。1分間に住宅3棟分もの木材が育っているということになります。

この量は、近年の住宅着工数の2倍以上であり、戸建住宅で考えれば5倍近い木材資源が蓄積されているのです。



資源が乏しいと思って見ていた景色も、ちょっと違う見方をしなければならぬのかもしれない。海を見ればメタンハイドレートの資源を想像し、森を歩けば30歩毎に1棟分の木材が生まれています。

うまく使いこなせば、資源がそこにあるのです。そして持続可能な社会をつくり上げるのを待っています。

～編集後記～

寒いと思っていた冬も終わり、あつという間に春到来。あたたかな日が続いています。皆様いかがお過ごしでしょうか。

自分も含め花粉症の方にとっては、つらいですね。新型コロナウイルスの位置づけが引き下げられ、感染対策が緩和しましたが、まだまだマスクは手放せそうにありませんね。



友だちが来ても大丈夫

普段は広く使える部屋は、友だちもゆっくり過ごせるね!



たいしんしんだん 耐震 診断

30年以内に巨大地震が起こる確率は70%以上。
巨大地震は、いつ起きてもおかしくはありません。

※このような方は、耐震診断をご検討ください。

- 昭和56年以前に建てられた住宅に住んでいる方
- リフォームを考えている方
- リフォームや改修は10年以上したことがない方
- 過去に増改築された住宅に住んでいる方

有資格者による
耐震診断承ります

まず「家の弱点」を知ることが重要です。当社は耐震診断のプロ「耐震診断士」による現地調査・診断を実施しています。

～住まいは命を守るもの～

「地震に強い家」は、わが家は「健康一番家」の最大の特徴です。



株式会社大成建託
〒306-0405
茨城県猿島郡境町塚崎2542-1

☎0280-87-6177

健康いちばんや





株式会社 大成建託 ☎ 0280-87-6177



「おうちはなし」バックナンバーは弊社ホームページでご覧いただけます。

健康いちばんや



ホームページ <https://www.fp-taisei.co.jp>



旬を 食べよう!

ササッとお昼にいかが? 濃厚ソースが美味しい。

そばめし



<作り方>

- ① キャベツは1cm角に切り、玉ねぎは粗みじん切りにし、にんにくはみじん切りにする。焼きそば用麺は細かく刻む。豚こま切れ肉は塩、黒こしょうで下味をつける。Aを混ぜ合わせる。
- ② ホットプレートで熱してごま油をひき、豚肉を入れてほぐしながら炒める。色が変わったら、にんにくを加えて炒め、香りが出てきたらキャベツ、玉ねぎを加えて炒める。
- ③ 玉ねぎが透き通ってきたら焼きそば用麺、ごはんの順に加えてほぐしながら炒め、全体に油が回ったら、Aを加えて炒め合わせる。平らにならして少し焼きつけたら、できあがり。

POINT

細かく切った麺とご飯を炒めることで、食べやすくバラツとした軽い食感に仕上がります。

～ 材料 (3~4人分) ～

- ・焼きそば用麺・・・2玉
- ・温かいご飯・・・200g
- ・キャベツ・・・100g
- ・玉ねぎ・・・50g
- ・にんにく・・・1片
- ・豚こま切れ肉・・・150g
- ・塩・・・小さじ1/4
- ・黒こしょう・・・適宜
- ・ごま油・・・大さじ1/2

- A {
- ・ウスターソース・・・大さじ3
 - ・中濃ソース・・・大さじ2
 - ・オイスターソース
 - ・・・・・・・大さじ1
 - ・塩
 - ・・・・・・・小さじ1/3

おがすい! のびちゃん

旅行編



家づくり 庭づくり

世界を魅了したシャクナゲ

欧米を旅して日本と共通した植物たちに頻繁に出会うことがあります。英国やオランダ、ドイツなどの北ヨーロッパの4月は、シャクナゲが満開の時期を迎えます。

日本では、少し標高の高い地域や場所で見かけるので、ロンドンの街中で見かけると圧倒されます。宿根草や花木が本格的に花開くシーズン前なので、より目立つのかもしれない。

非常に多くの園芸品種があることも、多くのガーデナーたちにも親しまれている要因です。バラやクレマチスに次ぐほど人気の高い植物なのです。春のガーデンセンターを訪れると、シャクナゲ売り場がコーナーとして設けられており、シャクナゲを知らない人はいないでしょう。

シャクナゲはツツジ科に属している常緑性の低木です。もともとツツジ科は約30系統に分かれており、シャクナゲは、ロードデンドロンとよばれるひとつです。

世界にはロードデンドロンが原種だけで約1000種以上あるともいわれ、園芸品種はその10倍以上あると考えると、とても壮大な植物ですね。もともと高冷地に生息している為、夏期には涼やかな気候を好むシャクナゲですが、耐暑性・耐寒性をもった強い品種が多く改良されてきました。シャクナゲの原産地はヒマラヤが多く、日本をはじめ、アジア、北アメリカ東部、ヨーロッパにまで達します。

シャクナゲはツツジやサツキと同じツツジ科ツツジ属の仲間ですが、常緑性で枝先に6個程度の花をつけるものをシャクナゲ、落葉性で枝先に3個程度の花をつけるものをツツジと呼び、一般に区別しています。

日本の在来種には、エゾシャクナゲ、アズマシャクナゲ、ホンシャクナゲ、ホソバシャクナゲ、ツクシシャクナゲがあります。



さて、このシャクナゲですが、世界の分布を見ると、もともと原種は非常に幅広く存在します。セイヨウシャクナゲと一般に私たちが呼んでいる種類の大半がアジア原産の種と、欧米原産の種との交配によって作り出された園芸品種です。ヨーロッパのシャクナゲは、まずアルペンローゼで、他にはアメリカ原産のカタウビエンセが有名な原種です。



住まいづくりで「空気」について考えたことはありますか?

キレイな空気で暮らす家

～ 毎日ふれる空気だから、いちばんこだわりたい。～

集塵効率98.5%! PM2.5や花粉、ハウスダストから家族を守る、ビルトイン空気清浄器付きのお家です。

詳しくは-



株式会社大成建託
〒306-0405
茨城県猿島郡境町塚崎2542-1

☎0280-87-6177

健康いちばんや

